

山の暁



著 者 略 歴

現在 毎日新聞社，社友，下野新聞社監査役。

福井県丸岡町生れ（明治三十六年），東京大学英法卒（昭和四年）

短歌蒼穹社同人，現代歌人协会会员，日本歌人クラブ幹事

著書 歌集「霞む山脈」，「落葉松の道」，「満天星」など。

第四歌集 山 の 暁 蒼穹叢書第七十編

第四歌集	「山 の 暁」	定 価 非 売 品	発 行 日 昭和五十一年六月一日	著 者 酒 井 ひ ろ し	発 行 人 酒 井 衍 ひろし	発 行 所 東京都中野区中野一ノ四一ノ三七 電話〇三・三六一・〇三七〇
------	---------	-----------	------------------	---------------	--------------------------------	--

酒井ひろし 著

歌集

山
力
曉

蒼穹叢書 第七十編

花のまきしき
百の刻しき
しき
林の中
さ
さ

目次

昭和四十五年 九〇首

和歌の浦.....一一

閑日閑庭.....一四

連翹の雨.....一七

万国博を見る.....二〇

竹田川.....二三

霧積谷.....三五

百日紅.....三七

枯葉の夢.....四〇

草津の秋.....四三

昭和四十六年 一三五首

去年今年.....四九

齋庭の雪.....五一

築地川.....五三

春しぐれ.....五七

大徳寺	六
彼岸の春	六
落の唄	六
芸術と死と	九
山の暁	七
奥越路	六
丸岡城	八
会津の秋	一
川田順遺墨展	九
浜水仙	五
	八

昭和四十七年

一一五首

落の春	一〇
煩悩林	五
浜名湖畔	一〇
桃咲く村	九
鳥城新緑	一
伊勢路	一
古城の友	七
	二
	〇
	一
	二
	四
	六

昭和四十八年

一三三首

あかね雲……………一二九
友病みて……………一三二
冬木宿……………一三六
若狭路……………一三九
霜月師走……………一四三

古稀の風……………一四九
梅咲く頃……………一五三
塩原春雪……………一五七
御前崎……………一五九
養老山……………一六一
三河三谷……………一六五
越前海辺……………一六九
九頭竜ダム……………一七九
水元公園……………一八四
出雲崎……………一八七
野尻湖畔……………一九二
生ある如く……………一九六

昭和四十九年

九八首

曉の雲	二〇三
凍雪の道	二〇七
二月の風	二一一
矛盾の中に	二一五
朝の光	二一九
神流川	二二三
ほたる草	二二六
妻病めば	二三〇
渚をゆきて	二三一
秋雨山莊	二三四
一条の光	二三八
合計	五七一首

あとがき

写真 自詠自書

山の暁」より

あかつきの光さし来ぬ 百鳥の声やみしとき 林の中まで

表紙 浅間山素描 著者

昭和四十五年

九〇首

和歌の浦

梅咲いて波静かなり
赤人のうた詠みにけむ玉
津島宮

若き日の勤め終りてわが友らおほむね
今は老に入らむとす

めぐり来し今日の幸酌まむ戦友よ二十余年の
無音を謝して

春風に鳶二つ舞ふ田の浦のさざ波寄せよ蓬来
岩に

幾千年波の削ぎしかさながらに木目とも見ゆ
奠供山肌

岩の幾つ巻きてそびゆる根上りの松を撫でつ
つかなしも吾は

まなかひの名草の山に見ゆるかな西国二番紀
三井寺の屋根

三月一日、パンピ会を望海楼にて催したるとき芭蕉の
碑「見上ぐれば花はしまふて紀三井寺」

見上ぐれば花まだ早し黙々とのぼる石段二百
三十余

紀の国の名草の山のふところに湧く真清水よ
永久とほにこそあれ

閑日閑庭

梅散りて馬酔木咲きつぐ庭小さき幸にをり老
の閑日

久しくも風邪にこやれば亡き母のいや恋しか
も老いて幼く

冬椿青き葉かげに純白の花をもたげてひそか
なる日日